

小学部「生活」学習指導案

1. 日時 令和7年10月7日（火） 第2時限（10:00～10:40）
 2. 場所 前半：小学部第1学年 3組教室 後半：小学部第1学年 学習室
 3. 学部・学年・組 小学部 第1学年 9人
 4. 単元（題材）名 「新聞紙で遊ぼう」
-
5. 単元（題材）目標
 - ・遊びの中で、児童が好きなこと、楽しいことに気づき、遊びに参加できるようにする。
【知識及び技能】
 - ・教員や友だちと同じ場所で遊ぼうとしたり、遊びを工夫したりすることができるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】
 - ・教員や友だちからの働きかけに応じたり、自分から遊びを選択しようとしたりする意欲を育てる。
【学びに向かう力、人間性等】

6. 児童観 【略】

7. 教材観

本単元では、遊びを通して友だちを意識できるような活動を設定したいと考える。大きく身体を動かすことや、児童の得意領域である「作業」（A²〔支援のための発達アセスメント〕より）を取り入れた学習活動を踏まえ、遊びの素材は新聞紙を使用する。新聞紙1枚（縦546mm×横812mm、対角線で約1m）は、小学部1年生児童の身長ほどの大きさがあり、全身を使いながら働きかけられる素材である。また、児童の手でいろいろな形に変形することができ、教員のサポートがあれば、どの発達段階の児童でも動作を模倣して素材に働きかけたり、素材が変形していく様子から見立て遊びなどに発展させたりすることができると思う。児童が、単元の授業を通して、新聞を破る、ちぎる、折る、丸める、かぶる、羽織る、新聞紙でものを包むなど遊びを自分なりに工夫して、見た目や感触の違いに気付いたり、感触を楽しんだりすることができると思う。

第1次の導入では、身体を大きく動かしたり、いろいろな動物になりきることで表現を楽しんだりすることのできる体操『からだ☆ダンダン』を行う。展開では、児童に本単元のメイン教材である新聞紙を提示し、自由な環境下で思い思いの遊びができる環境を設定する。単純な感覚遊びを（学習指導要領小学部1段階レベルの遊び）を設定し、児童に対して、教員の働きかけを敢えて行わないことにより、児童がどのように遊ぶのか、どんな発想を行うのかなどを知ることができるようにする。その中で、児童の言動を拾いながら、今後の第2次の活動につなげ、児童の思いにあった新聞紙を使用した遊びを行いたい。

第2次では、第1次に行った新聞紙遊びから見られた児童の様子を取り入れた目的のある設定遊び（学習指導要領小学部2段階レベルの遊び）を行う。新聞紙をビリビリと破ったり、クシャクシャと丸めたりする児童もいれば、見立て遊びができる児童もいることが推測される。それぞれの遊び方を取り入れた授業内容を第2次に設定することで、児童がやりたい遊びができるようにする。活動を進める中で、児童の見立て、自由な遊びや発想から授業内容を決め、児童の思いを尊重した授業作りを行い、第2次の4時では、季節のイベントであるハロウィンを意識した『おばけを倒そう』という新聞紙遊びへ発展していくような組み立てとしたい。

8. 指導観

生活の授業では、視覚的な情報から活動の流れが理解できるように、活動内容やスケジュールをkeynoteで作成し、テレビモニターに映して確認している。

本グループは小学部1段階と2段階の児童がいるため、それぞれの児童の実態に応じた指導・支援を行う。第1次の活動時における1段階の児童への支援については、新聞を破ったり、丸めたりする感覚を主体的に楽しむことができるように、教員は並行遊びを行うなど、働きかけを工夫する。図工の授業でも「ビリビリ（破る）の術」「クシャクシャ（丸める）の術」といった児童にとって分かりやすい表現で活動を行っており、本授業においても児童がイメージしやすい擬音語、擬態語などを用いる。また、自ら友だちを意識することはまだ少ないため、一人での感覚的な遊びや、新聞紙遊びを介した教員との関わり遊びがメインとなる。他の児童と遊びを共有できそうな場面で、教員が働きかけを行うことにより友だちを意識したり、活動の機会を与えたりしていきたい。2段階の児童については、児童自身が新聞紙の形の変化に注目したり、感触の変化や大きさの違いに気付いたりして、より自由な見立てや発想から発展的な遊びを見出して活動できるようにする。また、各々が遊びを楽しむ中で、友だちの様子を意識したり、教員や他の児童とやりとりのある遊びをしたりするような言葉かけを行い、児童が自ら周りへ働きかける機会を設けたい。

第2次では、設定遊びを中心に行う。教員が予め授業内容を決めておくのではなく、前時までの児童の発想や興味に合わせて設定する。授業の導入場面では、第1次と同様、『からだ☆ダンダン』のダンスを設定する。音楽の授業において、手本を見ながら同じダンスや歌唱に挑戦することは、児童にとっての成功体験を積み重ねる経験となり、“踊りたい・歌いたい”という意欲が高まる様子が見られた。本授業においては、身体を大きく使って踊ったり、身体で表現できる楽しさを知ったりすることを繰り返すことで、身近な人との関わりを楽しむことができるようになっていくことをめざしている。また、第2次の4時では、今後の授業でハロウィンを題材とした授業を扱うことを踏まえて、「おばけを倒す」というミッションを設定する。活動の導入で提示したおばけをいろいろなところに貼り付けておき、ジャンプしたり、新聞紙で作った道具を使ったりしておばけを倒すことができるようにする。また、1段階の児童もおばけを倒すことができるように床に置いておき、破ることができる環境を作る。児童自身が新聞紙遊びを通して見られた発想を生かし、友だちの真似をしたり、遊びを工夫したりして楽しむ児童の様子が見られるようにしたい。

9. 単元（題材）の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
①体操や新聞紙遊びの楽しさに気付き、体を使って遊ぼうとしている。	①教員からの働きかけに対して笑顔になる、真似をするなど何らかの反応を返している。	①活動の中で自分の好きなことを選び、教員や友だちに伝えようとしている。
②新聞紙を破いたり、丸めたり、叩いたりする感触の違いに気付いて遊んでいる。	②教員や友だちの反応を真似したり、「楽しい」「ふわふわ」などの気持ちや感覚について、感じたり、言葉で伝えたりしながら遊んでいる。	②提示された新聞紙の教具で遊びながら、自分でも作りたい気持ちを教員に伝えたり、自分で作ろうとしたりしている。
③教員や友だちと新聞紙を介して遊ぶことの楽しさに気付き、集団遊びに参加しようとしている。	③自分一人で、または教員や友だちと一緒に、新聞紙を丸めて球にしたり、別の物（眼鏡や剣など）に見立てたりするなどして楽しんでいる。	③「～ができたね」「～したいね」という教員からのフィードバックに対し、「～をして楽しかった」「また遊びたい」「次は～をしたい」という意欲を示している。

10. 単元（題材）の指導と評価の計画（全4時間、本時は第4時）

次	時	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
一	1	体操：楽しく身体を動かすウォーミングアップ ＊一次二次で実施。以下略。	体操『からだ☆ダンダン』を行う。	教員が、新聞紙を身に付けることで、新聞紙に興味をもてるようにようにする。教員からは、衣装について触れないことで、児童がどのように感じとっているのかを見る。	- A① - B① (行動の観察)
		新聞紙遊び：児童各々の好きな遊び方で遊ぶ	- 教室内のルール確認をする。 - 新聞紙で自由に遊ぶ。	- 話を聞く場所と遊ぶ場所（活動場所）を分けることで、メリハリのついた活動ができるようにする。 - 新聞紙で自由に遊ぶ様子を見て、児童の新聞紙の興味の示し方や遊び方を知るために、教員からの働きかけは最小限にする。	- A①②③ - B①② - C① (行動の観察)
		本時の振り返り ＊一次・二次で実施。以下略。	- 活動の様子を写真で見て振り返る。 - 数人の児童が、教員や友だちに言葉や絵カードで活動の感想を伝える。	- 活動の様子を視覚化できるように写真や動画を用いて振り返る。 - 言葉で話すことができる児童は友だちに伝えること、まだ難しい児童は絵カードを自分で選択し、教員が代弁することで伝えあう経験ができるようにする。	C③ (行動の観察)
二	2・3	- 新聞紙遊び ビリビリ、クシャクシャなど、自由に工夫して遊びを広げる - 設定遊び：環境設定により、違った感覚の新聞紙遊びを楽しむ	- 新聞紙で自由に遊ぶ。 - 新聞紙を使用した遊びを設定し、遊ぶ。	- 新聞紙と一緒にクシャクシャするなど、教員や身近な友だちの様子を見ながら活動できるようにする。 - 前時に見られた児童の様子や児童の発言を元に設定遊びができるよう、新聞紙で作成した教具を置いておく。	- A①②③ - B①②③ - C①② (行動の観察)
	4 (本時)	- 新聞紙遊び ビリビリ、クシャクシャなど、目的をもって遊びの工夫をする - 新聞紙おばけ退治 『おばけをたおそう』 - 片付け	- 新聞紙で自由に遊ぶ。 - 新聞に埋もれているおばけや壁面に貼り付けられているおばけを退治する。	- 前時までの遊びを思い出したり、新聞紙を説明中に提示することで、もっと遊びたいという児童の気持ちを高めたりする。 - おばけの高さや大きさを変えることで児童が好きな場所を選んだり様々な手足の動きをしたりすることができるようにする。 - 片付けの際に、大きな袋に入れることで、手で触った時の新聞紙と異なる感触や袋を見立てることを楽しむことができるようにする。	- A①②③ - B①② - C①② (行動の観察)

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・教員や友だちと同じ場所で遊ぼうとしたり、自分なりにおばけ退治をしようとしたりすることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・新聞紙を好きなように扱う中でおばけ退治をしたり、教員や友だちの働きかけにより、新聞紙おばけを倒すという目的をもって遊びを行ったりすることができる。
【学びに向かう力、人間性等】

(2) 本時の評価規準

- ・自ら新聞紙に触れ、新聞紙を使った設定遊びに関心をもち、遊んでいる。【思考・判断・表現】
- ・教員からの働きかけに応じたり、友だちが遊ぶ様子の真似をしたりしながら新聞紙遊びを行おうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 本時で扱う教材・教具

- ・新聞紙 ・授業スライド (keynote) ・音源 ・モニター ・iPad ・HDMI ケーブル
- ・タイプC 接続ケーブル ・フラフープ ・養生テープ ・ブルーシート ・児童椅子
- ・袋 ・スポーツマット 3 枚

(4) 児童の実態と本時の目標 【略】

(5) 本時の学習過程

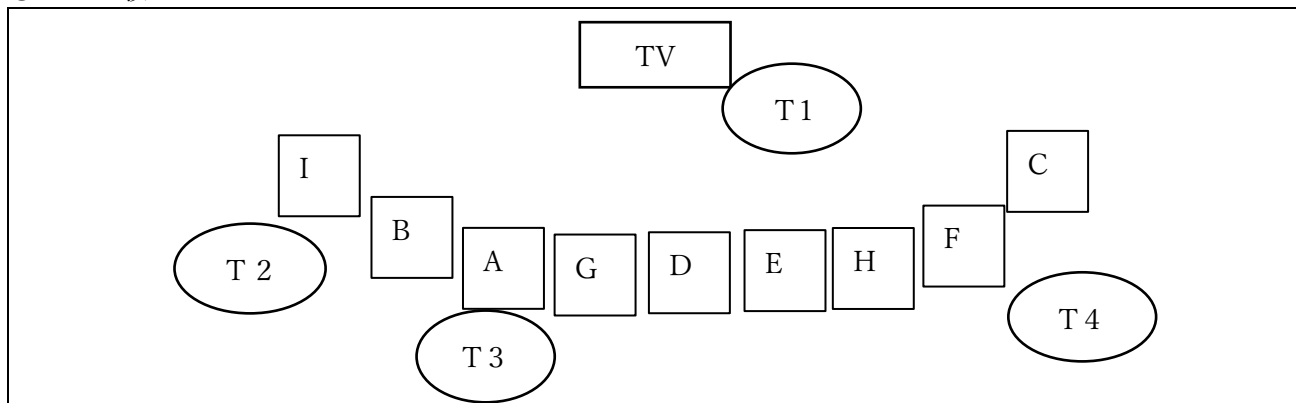
※前時の児童の様子に応じて、内容が部分的に変更となる場面もある。

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準 (評価方法)
7分 導入	・はじめのあいさつをする。 ・予定の確認をする。 ・体操『からだ☆ダンダン』をする。	・モニターの近くに椅子を置いて、T1 に注目できるようにする。 ・見通しをもつため、本時の内容の授業スライドに、イラストを入れて確認する。 ・教員が、新聞紙を衣装のように身に付けることで、今日も新聞紙を使った遊びをすることに児童が気付けるようにする。 ・踊る様子を称賛することで、楽しい気持ちで活動の展開にむかうことができるようにする。 ・モニターの映像を見ている児童に対しては、教員が児童の手を持って一緒に手を動かすようにしてきっかけをつくり、児童の動きがでてきたら、支援を減らして、児童の隣で一緒に踊る。	・A① (行動の観察)
25分 展開	・新聞紙をビリビリしたり、クシャクシャしたりする。	・楽しんで作業している児童に対しては、楽しんでいる様子を他の児童が注目できるように言葉かけをする。消極的な児童に対しては、新たな遊び方を提案したり一緒に遊んだりする。 ・「もっとたくさん遊びたい。」という気持ちを高め、教室を移動したあとに思い切り遊ぶことができるように、教室内で新聞紙を提示する。	・A② ・C①③ (行動の観察)

	・教室を移動する。（学習室へ） ・おばけを退治する。 ○１段階の児童は、各々の好きな遊び方を選択して遊ぶ。おばけ退治の遊びにも教員と一緒に参加することで、遊びの広がりをねらう。 ○２段階の児童は、目的をもった遊びの工夫・広がりが見られるようにする。 ・片付けを行う。	・教室を移動する前に、部屋の様子やこれから行くことを伝え、見通しをもって活動できるようにする。 ・視覚的に活動の終わりを示すためにタイマーをセットし、モニターに映し出す。 ・教員も全身を使って楽しい雰囲気を出しながら一緒に遊び、必要に応じて児童に遊びの提案を行いつつ、児童の主体的な遊びを支援する。 ・これまでは提示したことのない教具（新聞紙で制作）を用意しておく。「高いところにあるおばけはどうしようか？」と言葉かけをして児童が考えるきっかけを作ったり、教具を児童に見せて遊びが広がる選択肢を提案したりする。 ・おばけを床に置いておき、破ることができるようにする。 ・ビリビリやクシャクシャした新聞紙をまき散らすことを楽しんでいる児童については、新聞紙を使った好きな遊びを見つけたと捉え、自由に遊べるよう見守る。 ・片付けを楽しくできるように「おばけを閉じ込めよう。」と児童に伝える。 ・遊びで使用した新聞紙が見えないようにブルーシートで隠し、振り返りを行う場所を作る。	・A③ ・B①②③ ・C①② (行動の観察)
8分 ま と め	・活動の様子を写真や動画で観る。 ・数人の児童を教員が選び、児童からの言葉やICT機器を用いて、授業の感想を教員や他の友だちに伝える。 ・おわりのあいさつをする。	・活動の様子を見せるときには、児童の遊び方や関わり方、表情などに注目して称賛する。 ・言葉で伝えることができる児童は言葉で伝え、難しい児童は表情の選択をしてもらい、感じたことを伝える経験ができるようにする。 ・場面を提示して、「これは何をしていますか？」と質問して様子を振り返ったり、「楽しかったですか？」と質問したりすることで、児童が答えやすいようにする。「～できたね」「～していたね」「次はこんな遊びの挑戦もあるよ」と教員からの振り返りを適宜行う。 ・マットを敷いて座る場所を示すことで、T1やモニターに注目できるようにし、授業の終わりが意識できるようにする。	・C①③ (言動の観察)

(6) 教室配置等

○1ー3教室



○学習室

